

# 2 旧丹後街道と伝統的民家「門戸邸」訪問

若狭はかほま  
「ココイコ!  
ナニシヨ!  
ミニツア」



前半は旧丹後街道沿いを中心にした高浜地区の歴史的な町並み巡り、後半は塩土区など、漁村の歴史と文化にふれるまち歩きです。



## 2 旧丹後街道と伝統的民家「門戸邸」訪問

もんこ

若狭たかはま  
ドコイコ!  
ナニシヨ!  
ミニツァー



前半は旧丹後街道沿いを中心にした高浜地区の歴史的な町並み巡り、後半は塩土区など、漁村の歴史と文化にふれるまち歩きです。

### 1 旧高浜町観光協会(心癒案内所)

「旧京都電燈(関西電力の前身)」が昭和6年に建てた建物。高浜町観光協会の事務所として使われていましたが、平成19年の春に高浜駅舎へと移転し、現在はまち歩きのガイドステーション「心癒案内所」として利用されています。正面から見ると洋風のモルタル塗り、裏側が和風の下見張りのつくりとなっており、今では珍しい和洋折衷の建物です。



### 2 旧丹後街道

人やものなど非常に多くの往来があった昔の街道で、当時の雰囲気を残す町屋が多く残っています。屋根の向きは大家(おおや)造りといい、軒先が広く作られ、旅人をもてなしたり、近所の井戸端会議の場となったりしていました。また、この地域は冬場に雪が多く、屋根に積もった雪を広い街道に落とすために大家つくりの建物が並んだともいわれています。



### 3 門戸邸(もんこてい)



福井県「ふくいの伝統的民家」認定。町屋づくりの建物の特徴である「うだつ」「そでかべ」を見ることができます。「うだつ」は「うだつがあがらない」の語源であり、町屋の家と家の境目を埋めるとともに防火壁の役割を果たしていました。また、軒先が広く、それを支えるように棒が一本渡してあります。これを「でげた」といい、雪や雨で広い軒先が下がらないように桁を支えているものです。

### 4 釈宗演禅師生誕之碑(しゃくそうえんぜんじせいたんのひ)

釈宗演は、32歳にして鎌倉五山のひとつ円覚寺派管長に就任、世界に「ZEN」を広めた偉大な宗教家としてその名を今に残しています。安政6年(1859年)にここ若宮で生まれ、幼名を一瀬常次郎といい、12才で仏門に入りました。管長就任後もアメリカでの世界宗教会議に日本仏教代表として参加するなど、世界をまたにかけて活躍。「夏目漱石」など、当時の著名人へも大きな影響を与えた人物です。



### 5 塩土まち並み

塩土区は昔から漁業が盛んな地区で、路地が非常に狭く入り組んでいます。運がよければ、漁師さんの網仕事が見られるかもしれません。町中のところどころに見られる「気圧計」も、漁師町独特の特徴です。



### 6 高浜漁港

高浜の沖合いは、千島寒流と対馬暖流が合流するため、多様な魚種が数多く生息する漁場となっており、歴史は石器時代にまでさかのぼります。大正から昭和のはじめに巾着網を取り入れてからは、全国で1・2を争う「サバ」の水揚げを誇り、「アジ」「イワシ」「タイ」「ブリ」などで、トコ箱が山積みとなりました。



### 7 館太郎(たちだてい)

郷土史や町並みに造詣の深い館太郎氏の個人宅で、福井県「ふくいの伝統的民家」に認定されています。家の中には、永年コツコツと収集・保存してきた数々のお宝がところ狭しと並べられており、歴史に興味のある人にはたまらない品々ばかりです。



### 8 旧山口医院

昭和8年に建築された旧高浜町観光協会と並ぶモダンな建物で、スペイン葺の屋根と擬洋風建築が特徴。また玄関の柱は、少し丸みを帯びた「エンタシス」という、洋館ではよく取り入れられる工法が用いられています。玄関に施されている、幾何学模様のモルタルも当時としては非常にモダンなデザインでした。



### 9 金米橋(こんべいばし)

昔から、不浄なものが通ることを嫌った橋とされており、この橋があらゆることの境目となっています。七年祭といわれるお祭りでは、「東山」と「中ノ山」の2基の神輿の境となっており、お互いが橋を越えることは許されません。この地区に伝わる民話で、近くのお寺から仏像を盗んだ者が、この橋を渡ろうと足を踏み入れた途端に、仏像が次第に重くなり、どうしても橋を渡ることができなかったという話があります。今ではコンクリート製の橋に変わっていますが、昔は「いろは48文字」にならって48枚の御影石を敷き詰め、「いろは橋」とも呼ばれていました。

